

伊丹に置かれた川辺郡役所 明治、大正の約50年間活動

伊丹が歴史上、誇りにするものに清酒発祥の地ともいわれ、繁盛した江戸時代の酒造業のほかに、摂津の国の居城や川辺郡役所が伊丹にあったことがあげられる。まず川辺郡役所をたどってみると――

川邊郡誌附屬地圖



川辺郡伊丹町の道路元標 (小西酒造本社東北隅)

川辺郡は伊丹、尼崎の2町と13村 産業、交通、文化の要の役割果たした伊丹

明治4年(1871年)廃藩置県に
伴い、伊丹は兵庫県に編入された。そして明治12年に兵庫県は1区28郡になり、現在の東阪神地域は川辺郡となり、郡役所は伊丹町、現在の小西酒造本社付近に置かれた。

現在川辺郡は猪名川町だけが当時、川辺郡に属していたのは、別掲の地図に

あるように伊丹、尼崎両町と13村。伊丹町と稲野、神津、長尾村の一部が伊丹市に、尼崎町と園田、立花、小田村が尼崎市に入り、川西市は川西、多田、東谷の3村が合併、そして小浜、西谷と長尾村の一部が宝塚市に入り、六瀬、中谷村で猪名川町ができた。

大繁盛した宮ノ前商店街筋

大正2年の川辺郡の総人口は9万1千7百72人。このときの尼崎町の人口は2万5千45人と最も多く、伊丹町はわずかに9千8百84人だった。それでも郡役所が伊丹町に置かれたのは、酒造業をはじめとする産業が盛んなうえ交通、文化の要的な役割をはたすなど、町に勢いがあったからだといわれている。

当然、郡長が任命され、郡議会もあった。大正15年に郡制度が廃止されるまでの約50年の間に伊丹警察署を設置、現在の「有数の繁華街としてにぎわった。」

R宝塚線の前身にあたる川辺馬車鉄道、阪鶴鉄道を開通させた。また阪神間初の県立中学校、女学校の開校を実現させるなど、行政の中心的役割を果たした。

そしてこの間、猪名野神社前の宮前通りを中心に、西へは清水町、南へは伊丹8丁目につながる旧有馬道沿いや旧岡田家などの南側の通り、いわゆる旧米屋町、昆陽口通りなどに商店がずらりと並び、近隣地域から買い物客が訪れるなど、郡内